

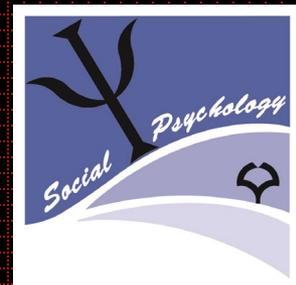
# ネット社会の心理・行動と 情報的健康

三浦 麻子

大阪大学

大学院人間科学研究科/感染症総合教育研究拠点

TWITTER: ASARIN





これまでの心理学研究で繰り返し示されてきたのは、

# 人間は合理的ではない

ということ

どういうときにどのような非合理的な心理や行動を示すのかを明らかにし、それをふまえた上で、社会の安定を目指すには何をどうすればよいかを考える(ための知見を提供する)のが、私のような社会心理学者の仕事

# 人は「見える」ものを 「見たい」ようにしか見ない

- ▶ そのため「見える」ものの「見え方」は人によって異なる
- ▶ つまり、自分に「見えた」ものと他者に「見えた」ものは、たとえ「見た」ものが同じだったとしても異なる
- ▶ これが「社会的現実」



# 社会的現実

- ▶ 私たちが「現実」だと認識しているもの
  - ▶ 「見たいように」見ているもの
- ▶ 事実とは異なり, 唯一不変ではない
  - ▶ 色眼鏡を通して見える「現実」は事実とは異なり, また, 単に事実と異なるだけでなく, その異なり方は人/状況により多様である
  - ▶ その色眼鏡が「認知バイアス」

# 認知バイアス

- ▶ 人間は、論理的に正しいとわかっていることでも、常にそれを汲んで理性的に行動するとは限らない
  - ▶ 楽観性バイアス, 正常性バイアス, 精緻化見込みモデル, ヒューリスティック, 認知的不協和...
- ▶ 様々な認知バイアスがあるが、その程度には個人差があり、状況の影響も強く受ける。  
ただし、基本的には「考えたいように」考える
  - ▶ **好きなものを好きなだけ食べられれば幸せ!**

このアナロジー  
たいへんよくできてる

錯思  
COLLECTION OF COGNITIVE BIASES  
コレクション100

YAHOO! JAPAN 検索  
このサイト内を検索 ○ ウェブ全体を検索

人気ワード | パーナム効果 ハロー効果 虚記憶 フレーミング効果

> 錯思コレクションについて

記憶 意思決定・信念 他者・自己 動画で学ぶ

意思決定・信念に関する認知バイアス一覧 Decision-making, belief, and behavioral biases

<p>文脈効果 context effect</p> <p>逸ってみる</p>	<p>利用可能性 ヒューリスティック availability heuristic</p> <p>どちらが多い?</p>	<p>アンカリング anchoring</p> <p>先に知ったことに縛られる</p>	<p>現状維持バイアス status quo bias</p> <p>変りたい、でも変わりたくない</p>
<p>フレーミング効果 framing effect</p> <p>言い方次第</p>	<p>確証バイアス confirmation Bias</p> <p>すべて予想どおり</p>	<p>真実性の錯覚 illusion truth effect</p> <p>繰り返し聞くうちに</p>	<p>計画錯誤 planning falacy</p> <p>また締め切りに間に合わない</p>
<p>代表性 ヒューリスティック representative heuristic</p>	<p>基準率の無視 base rate neglect</p>	<p>利用可能性カスケード availability cascade</p> <p>ドレドレ + プレレ</p>	<p>シミュレーション・ヒューリスティック simulation heuristic</p>

[https://www.jumonji-u.ac.jp/sscs/ikeda/cognitive\\_bias/](https://www.jumonji-u.ac.jp/sscs/ikeda/cognitive_bias/)

BLUE BACKS

# 認知バイアス

心に潜むふしぎな働き

鈴木宏昭  
Susuki Hiroaki



人間の脳は  
賢いけれど、愚かでもある

偏見や先入観などにとらわれて、気づかないうちに  
思い込みや勘違いをしてしまう「認知バイアス」とは?

藤田政博  
Masahiro Fujita

# バイアスとは何か

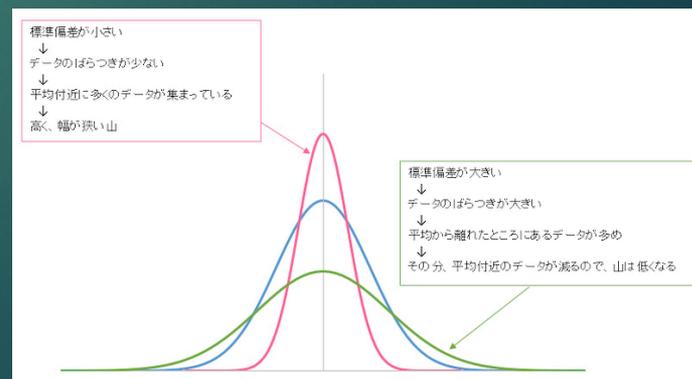
CHIKUMA SHINSHO

—バイアスについての知識があれば、あとから「バイアスに影響されていないか?」と思いつくことができます。このように、バイアスは知ったからといってなくせるわけではありませんが、対策をとることが可能なのです。—それが「バイアス」について知り、理解することのメリットを言えるでしょう。

ちくま新書  
1582

# インターネットでは...

- ▶ インターネット(特にSNS)は, 現実社会と比べて圧倒的に「見える」ものをコントロールすることができる, つまり「見たい」ものだけが「見える」世界(エコーチェンバー)
  - ▶ **極端な偏食が可能**
- ▶ 「見える/見えない」ものすら個人によってカスタマイズされ, さらに認知バイアスがそこに乗っかる
  - ▶ 分散が大きくなり, 分布がなだらかになる(平均付近の数が減り「極端」な人が増える)



# インターネットでは...

- ▶ 極端な「真実」がいくらでも発見でき、「見たい」と思えばそればかり見ていられる
- ▶ 極端なものは極端な反応を受ける
  - ▶ 陰謀論だと決めつけられるようなものこそ強烈に信奉されることもある
    - ▶ 陰謀論信奉者の治療には個別の状況を詳細に把握する必要があるので難しい(専門の「医師」が必要)
- ▶ 「お気持ち」が拡散

# 認知バイアスをなくそう!?

- ▶ 人間に進化的に備わってきた機能であり, 生き延びるために必要なものでもある. つまり, 認知バイアスは「ゼロにする(できる/すべき)」ものではない
- ▶ 人間がどうにかできるものではないので, 自覚と心がけ+発生してから(それが悪い影響を持つものだと気づいた時点で)「なんとかする」よう試みるしかない
- ▶ かといって, すべてをセルフコントロール(と集団による圧力)に委ねるのでは某政府の自粛要請と同じなので, メディアの積極的な取り組みにも期待したい

個人任せだと  
「これが最後のケーキ🍰」  
を毎日繰り返すかも

# 情報的健康を維持するために

- ▶ 現代はもはや(だいぶ前から)情報飢餓社会ではないので、何でもいから腹一杯食べることが重要だった頃とは違う
- ▶ 人々に好きなように飲食させていると偏食やドカ食いによる不健康児が量産されてしまう(現状, かなりされている)
- ▶ メディアは、**学校給食**—知らず知らずのうちに、バランスの取れた, しかもまあまあおいしい食事ができるシステム—を人々に提供することを考えて欲しい